



吉野作造記念館だより

〈編集・発行〉特定非営利活動法人 古川学人



『新人』に集う人々

1906年（明治39年）1月

中列左より、千葉豊治、海老名弾正、吉野作造、内ヶ崎作三郎、一人おいて小山東助。
前列右端、鈴木文治。

今年、日本労働運動の父、鈴木文治（栗原市金成出身）の没後六十五年にあたります。また来年二〇一二年は、鈴木文治が十五名の労働者と結成した労働団体「友愛会」の創立から一〇〇年を迎えます。これらを記念して、当館では企画展「吉野作造と鈴木文治」を開催しました。

この写真は、一九〇六年（明治三十九）一月、本郷教会の機関誌『新人』にたずさわる人々の集合写真です。吉野作造が二十八歳のとき、袁世凱の息子の家庭教師として清国に渡る直前に撮影されたものです。当時、海老名弾正が牧師をつとめる本郷教会は「書生の教会」と呼ばれ、学生や青年が集まり、教会の運営や機関誌の編集にあたりました。その中心的役割を担ったのは、吉野作造をはじめ内ヶ崎作三郎、小山東助、千葉豊治など宮城県出身者たちでした。

写真当時、東京帝国大学の学生であった鈴木文治もその一人です。鈴木は、『新人』において「皓天生」という筆名を用いて社会問題に関する文章を寄稿しました。強い宗教的感化のもとに学生生活を送り、同じ信仰をもつ郷党の先輩吉野らとの関わりや大学での社会政策の講義によって、鈴木は労働運動家として歩む決意を不動のものにしました。

鈴木文治と、鈴木にとって「兄とも師とも慕う」存在であった吉野作造との交流は三十六年間にもおよびます。二人の友情はキリスト教によって強い絆で結ばれ、互いにキリスト教人道主義の立場から労働者の人格尊厳、地位向上を訴え続けました。

（企画展の紹介は次頁）

企画展紹介

鈴木文治没後六十五年記念

「吉野作造と鈴木文治」

二〇二二年一月八日～三月二十一日

日本労働運動の父・鈴木文治（一八八五～一九四六）の没後六十五年を記念して、鈴木文治の生涯をたどり、吉野作造との交流を紹介する企画展を開催しました。

I 鈴木文治の生涯

鈴木文治は、栗原市金成の酒造業鈴木益治の長男として誕生した。十歳のとき、父とともに洗礼をうけてクリスチャンとなった。当時の金成で思潮が吹き、こうした雰囲気なかで少年時代を過ごしたことは、生涯人道主義的立場を貫いた鈴木文治の原点ともなった。小学校を卒業後、創立されたばかりの宮城県尋常中学校志



鈴木文治

会の建物惟一館において労働者団体「友愛会」を創立した。会は当初、社会主義運動への厳しい取締りを考慮し「友誼的共済

的又は研究団体」とし学者や実業家を顧問、評議員に据えたが、労働争議の指導や先進的労働者らの加入によって発展、一九二一年（大正十）には「日本労働総同盟」と改称した。鈴木は「労働者の人格尊重」を訴え、戦後の日本労働運動の礎を築いた。

II 吉野作造と鈴木文治

鈴木にとって七歳年上の吉野は、親友であり、良き理解者、助言者であり「兄とも師とも仰ぐ」無二の存在であった。二人は、鈴木が中学の頃、古川の下宿先が吉野の友人宅であったことから知り合った。以来、吉野が亡くなるまで三十六年間にわたり交流した。その間、キリスト教を通じて強い絆を結んだ。鈴木が中学三年生の夏休みに受取った吉野からの手紙には、吉野が洗礼を受けてクリスチャンとなった心情や、鈴木が既にキリスト教に入信していたことを知りうれしく思い、同じ信仰をもっていることで一層深い友情関係が築けるだろうといったことが綴られていた。吉野は欧州留学より帰国してすぐ「友愛会」評議員となった。



そして、直接労働運動を指導することはなかったものの、労働問題を「国民の生活に関する問題」として積極的に思想課題に取り入れた。二人は、互いにキリスト教的人道主義の立場に立ち、労働者の人格尊重、地位向上を訴え、労資対等を求めた。しかし、資本家もまた同じ人間であるとして、彼らを撲滅しようとする「過激な」革命的運動に断乎反対した。『吉野作造日記』には文治が八十三回登場し、公私にわたる親密な交流が伺える。『日記』には、鈴木が総同盟会長問題（一九三〇年）や衆議院補欠選挙立候補（一九三一年）で悩んでいるとき、吉野は逐一相談に乗り、その行く先を心配する記述が見られる。

コラム

NPO法人 古川学人
理事長
佐々木 源一郎

二〇〇八年、吉野先生の生誕一三〇年没後七十五周年を迎え、当館は全国に呼びかけて、記念論文を募集しました。

隔年で第一回十一編、第二回十七編の応募があり、太田先生、祇園寺先生、当館田中館長を審査員に、最優秀賞一名、優秀賞二名をそれぞれ決定し、「吉野作造研究」（以下「研究」）に特集号として発表しました。第一回の方は研究五号及び記念館だより第十七号に掲載しています。

今回の第二回では、斉藤由佳さんが吉野の「婦人解放論」、朱琳さんが吉野と内藤の「ふたつの中国認識」、中村敏さんが「吉野作造と朝鮮問題」で、各々受賞し研究七号に掲載。時宜を得た論文で、太田先生もレベルの高い秀逸な論文と高く評価されています。

また、読売吉野賞審査委員でもある猪木武徳先生や、諸先生方のご協力で、東大、京大、慶応大、東北大の学生を対象に吉野ネットワーク交流事業を、短期集中合宿研修会で実施。参加した学生諸兄は感動感激を深め、将来の吉野作造を目指して決意を新たにされた様子です。

NPO法人「古川学人」は、従来の活動を再点検して努力することを誓い、皆様のご協力をお願い申し上げます。

吉野作造顕彰講座
新聞で読む吉野作造

館長 田中昌亮
二〇一〇年十二月
〜二〇一一年二月

今年の「吉野作造顕彰講座」のテーマは「新聞で読む吉野作造」でした。



明治時代から現代までの新聞に掲載された吉野に関する記事を取り上げました。六回に亘り約五十名の方が受講しました。

一八九七年（明治三十年）の『奥羽日日新聞』には宮城県尋常中学校で五年間学んだ吉野が、成績優秀な特待生であり、「学生の亀鑑」であると紹介されています。



友愛会創立九十八周年記念講演
鈴木文治・友愛会と吉野作造

於 東京ゆづらいふセンター
二〇一〇年八月一日

「友愛会」の創立記念事業が東京で開催され、友愛労働歴史館の依頼により、館長田中昌亮が講演を行いました。



「吉野作造」というレンズを通しての鈴木文治を内容とした講演です。

一九一八年十一月、吉野作造と浪人会との立会演説会が開かれたとき、鈴木文治は会場に入りきれない二千人の群衆に向かつて、大声でその様子を説明したのです。

吉野の奮闘を聞いた群衆からは、「吉野博士万歳」、「デモクラシー万歳」の声があり、喚声は会場を包み込みました。鈴木文治の活躍は実に目覚ましいものでした。この直後の年末に知識人の集まりである黎明会が、年明けには東大生を中心とした新人会が結成されました。

金成町生まれの鈴木文治について、旧制古川中学校第一回卒業生であったこと、中野重治の小説「むらぎも」に登場する描写、古川の諏訪公園には鈴木文治の碑が建ち、吉野たちと共に活動し首相になった片山哲の揮毫であること、なども紹介できました。



講演・講座

- 平成22年度は6団体の方々から、館長への講演・講座の依頼がありました。
- 尚綱学院高校
 - 東北学院大学〔仁昌寺教授ゼミ〕
 - 吉野先生を記念する会
 - 友愛会創立を記念する会
 - 金成教育センター〔くりはら専門大学〕
 - 宮城いきいき学園大崎校

吉野作造記念館 ホームページのお知らせ



当館のホームページでは、イベント、利用案内、施設案内、刊行物等、今知りたい旬な情報が多彩に掲載されています。ぜひ一度、ご覧下さい!!

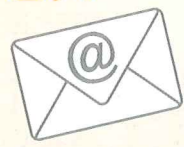
ホームページは **吉野作造記念館** で検索



- 携帯電話用アドレス
<http://www.yoshinosakuzou.jp/yoshino.htm>
- パソコン用アドレス
<http://yoshinosakuzou.jp/>

メールマガジン配信サービスのお知らせ

当館のホームページにて、皆さんのパソコン及び携帯電話のメールアドレスを登録していただくと、**イベント情報等を定期的にメール配信（無料）**いたします。ぜひ、ご利用下さい!!



井上ひさし名誉館長を偲んで

故井上名誉館長の一週忌

月日の流れるのは早いもので、井上名誉館長が昨年四月に亡くなられて一年になります。記念館での講座も十七回に及びました。時事問題を、批判精神とユーモアで解説し、会場を笑いと熱気で包んで下さったことがつい昨日のように懐かしく思い出されます。



記念館では昨年四月から井上先生を偲ぶ特別展示コーナーを設け、皆様からのご記帳や、思い出ノートへの記録も賜りました。

吉野の後輩だからと名誉館長を受諾

多くの人々の努力が実り、待ちにまつた「吉野作造記念館」が開館したのは一九九五年（平成七年）でした。開館日は吉野の誕生日の一月二十九日。民本主義を唱え、今日の民主主義のさがけを示し

た、郷土の偉人吉野の教えを語り伝える拠点ができたのです。

その三年後に名誉館長として話題に上ったのが、「ひよっこりひよったん島」などを作った放送劇作家で、小説家でもあり、日本ペンクラブ会長を歴任した井上ひさし先生でした。当時の古川市長と会って決定したのが一九九八年。先生は吉野に強い関心を持っていました。



「吉野作造は、私の母校であり仙台一高の前身でもある宮城県尋常中学校の先輩です。だからことあるごとに、こんな場合、吉野はどう考えるだろうということに気にかけて生きてきました。これからは一

緒に吉野博士の勉強をしていきましよう。そして年に一回発表していきます。」と下さり、ほぼその通りに実行されました。（二〇〇八年は講演当日の六月十四日に岩手・宮城内陸地震が起き、中止のハプニングなどもありました。）

一九九八年十二月の第一回講座から、二〇〇九年四月の第十七回講座まで、井上先生のわかりやすい民本主義の解説は会場の人達の胸に、多くの教訓を刻み込んでくださいました。

兄おとうとの古川公演

吉野作造と弟の吉野信次の物語「兄おとうと」は、井上先生の劇団「こまつ座」公演で大好評でした。大正デモクラシーの旗手である作造と、国務大臣の信次の立場や意見の違いは、政治哲学と倫理の見事な対比を描きます。その二人の妻も姉妹という関係であり、「これほど面白い兄弟はいない」と先生に言わ



せた劇です。二〇〇六年の全国公演では三月十三日に、雪の降り積もる古川市民会館で公演が実現します。貧しさゆえの盗みに至る庶民の「なぜ」に伝えようとする吉野の熱意や、価値観の違いで疎遠になる兄弟を、箱根の旅館で仲直りさせる二人の賢夫人の策略など、たくさん感動を私たちに与えてくれました。

ありがとうございました

先生は深い立脚点から吉野の考えを理解し、民衆の力を真に發揮できる議会と憲法の在り方を説き続けて下さいました。ご講演と珠玉の著作集を学び直し、新たな視点でデモクラシーを語り伝えていくことを誓い、感謝の意にかえさせていただきます。

出前講座がスタートしました

学校教育と連携し、これまでは中学校の招館事業をやってまいりました。平成22年度後半からは、学校の授業に向向く「出前講座」がスタートしました。中学校や高校の授業に活用してみませんか。30分程度のスライド映写で、吉野の生い立ちと業績、時代背景などをわかりやすく説明いたします。



こせんがくじん
古川学人 吉野作造の
生い立ちと業績

吉野作造記念館
特定非営利法人 古川学人

「第2回吉野作造研究賞」受賞者決定!

「第2回吉野作造研究賞」では二〇〇八年の吉野作造生誕一三〇年没後七十五年記念論文募集事業に続き、吉野作造研究の更なる発展を目的として「吉野作造の思想ならびに業績」をテーマに論文を募集しました。

二〇〇九年六月、全国の大学および所属の研究所、歴史学会、博物館、図書館などにご協力いただき呼びかけるとともに、ホームページ上にて募集を開始しました。

審査には前回と同じく、太田雅夫氏（元桃山学院大学教育研究所教授、同研究所所長）、祇園寺則夫氏（小山高等専門学校名誉教授）、そして当館館長田中昌亮の三名があたりました。

第一次審査は二〇〇九年十一月三十日までに論文要約を提出する形式で行われ、国内外から十七編の応募がありました。第二次審査は二〇一〇年六月三十日締め切りで本論文を提出してもらい、八編の応募の中から審査の結果、最優秀賞一編と優秀賞二編が八月に決定しました。

十一月十三日には受賞者の方々を古川にお招きし、表彰式ならびに最優秀賞受賞者講演を行いました。

《最優秀賞》

「吉野作造における

「婦人」解放論」

齋藤 由佳

（名古屋大学大学院文学研究科博士課程後期課程・富山県在住）

吉野作造が『婦人公論』をはじめとする「婦人」雑誌や総合雑誌等に「婦人問題」として寄稿した論考をもとにこれまで論及されることのなかった、吉野作造の婦人解放論の内容とその特徴を説明しようとしている。

その際、吉野の婦人解放論を知る手立てとして同時代の生物学者・山本宣治と比較をしている。

山本は無産階級を対象に産

児調節にかかわる思想と運動を展開し、科学的な性知識の啓蒙と性意識の変革が社会問題解決への根本だと考えた。このような山本の立場と照らして、論壇での吉野の主張および賛育会病院、家庭購買組合、法律相談所等での活動に見られる吉野作造の婦人問題への理解度や婦人解放論を論じている。

《優秀賞》

「二つの中国認識

―吉野作造と内藤湖南―

朱琳

（東京大学大学院法学政治学研究科博士課程・東京都在住）

大正時代において、中国をよく理解している知識人の代表であった政治学者吉野作造と、歴史学者内藤湖南の中国認識の差異を考察した論文である。

二人は辛亥革命や対華二十一条要求、五四運動、「満州」問題など中国で発生した政治的的重大事件に対して対照的な中国観を展開する。比較することによって個人の思想研究では見えてこない

視点を明らかにしようと試みた論文である。

《優秀賞》

「吉野作造と朝鮮問題

―日韓併合から三・一独立運動

までを中心として―

中村 敏

（新潟聖書学院院長・新潟県在住）

進歩的知識人が「内政においては立憲主義、外政においては帝国主義」を主張した大正期に、吉野作造は「内政においては民本主義の徹底、外政においては国際的平等主義の確立」を目指し、朝鮮・中国の独立運動の支援に結びついていった。

このような吉野の言動にはキリスト教信仰が深く関わっていたとし、朝鮮総督府の同化政策や日本組合教会の植民



第2回吉野作造研究賞 表彰式
最優秀賞受賞者記念講演

左から田中昌亮、祇園寺則夫氏、太田雅夫氏、齋藤由佳氏、朱琳氏、中村敏氏

～刊行物のご案内～

『吉野作造研究』第7号 頒価1,000円

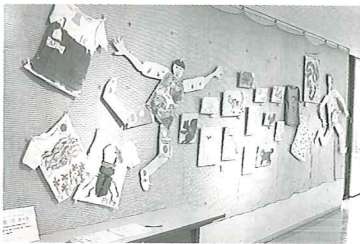
「第2回吉野作造研究賞」受賞論文特集号として『吉野作造研究』第7号を発刊しました。受賞者の方々の論文をぜひお手にとってご覧下さい。

※郵送での購入を希望される方は当館までお問い合わせ願います。



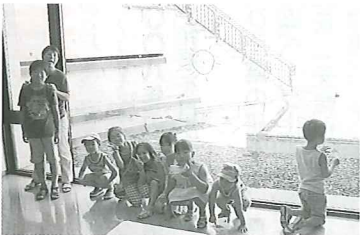
地伝道への批判など、日韓併合から三・一独立運動までを中心とした朝鮮問題に関する吉野の主張をキリスト教者としての立場をふまえて考察している。

ミンナdeアート2010 2010年7月18日~7月25日



岩出山の「アトリエかぜのこ」との共催企画。3歳から小学6年生までの作品50点を展示しました。

伸び伸びと描かれた楽しい作品は訪れた方の目を楽しませてくれました。



7/24 ワークショップ

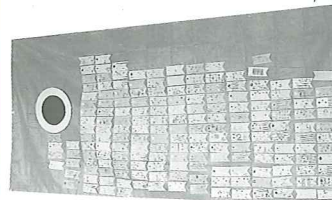


記念館の窓にカラーシートで海を描きました。

GWイベント

2010年5月3・4・5日

3日間たくさんの家族連れでにぎわいました。5日に行なった「マジックショー」では大人も子供も不思議な世界に驚き、研修室に作られた「あそびの森」ではつりゲーム・アニマルポーリングを楽しむ声が響きました。工作コーナーも人気で素敵な作品が出来上がっていました。イベント中ラウンジに「だがし・よしのや」がOPENし、おいしいお菓子を笑顔で食べる姿が見られました。



巨大こいのぼりを作ろう

イルカを釣って大満足



チンブイさんのマジックショー



イベント紹介

2011年3月

夏休み特別企画

知ろう！学ぼう！吉野作造

2010年7月28日~9月12日

子供たちの夏休みに合わせ、吉野の生涯がよくわかるように絵や写真パネルで紹介しました。大人の方にも好評でした。



7/31のイベントではクイズラリーを開催。参加証をもらい、たくさんの歴史家の中から作造さんをさがすクイズなどに挑戦しました。



クイズラリーは館内にかくされた問題をさがしてクイズに挑戦！
正解者はプレゼントがもらえてみんなうれしそうだったよ★



ぼくたちが案内役

井上ひさし名誉館長をしのいで 遠藤 征広 氏 講演会

2010年6月19日



演題「遅筆堂文庫物語

—小さな町に大きな図書館と劇場ができた—



弦 地域文化支援財団
事務局長 遠藤征広氏

吉野先生を記念する会との共催企画。井上氏との交流を軸に、井上氏からの寄贈本を集めた「遅筆堂文庫」設立に至るまでのお話しをして下さいました。

読売・吉野作造賞 受賞者講演会
細谷 雄一 氏 講演会
 2010年10月2日



演題「国際的正義を求めて
 -吉野作造からトニー・ブレアへ」

2010年読売・吉野作造賞は慶應大学准教授細谷雄一氏の「倫理的な戦争-トニー・ブレアの栄光と挫折」が受賞しました。講演では吉野や元英国首相のブレアが訴えた国際民主主義の必要性



について考察。会場のみなさんへ質問を交えながらお話ししていただきました。

サマーイベント
 2010年7月31日

記念館で楽しい夏休みの一日を過ごしてもらおうと企画。クイズを交えながらの職員オリジナルの創作劇やベンガラという染料を使ったエコバック作りなど楽しんでいただきました。正面には七夕飾りを用意し願い事をかいてもらいました。



マコロンとピッキーの夏休み



ベンガラ染めでエコバック作り



工作コーナー



これまでの
 2010年4月

第4回吉野ネットワーク交流事業 人材育成研修会
 2010年9月3日～5日（2泊3日の合宿研修）

平成19年より開催し、今回で第4回目の開催となりました。この研修会は、学生の人材育成を目的として実施。講師は、「読売・吉野作造賞」を受賞された先生を中心に構成され、参加学生は関東・関西・東北の大学生が参加しました。研修会は2泊3日の合宿形式で、当館の見学・集中講義を行い、研修会の最後には、活動の成果報告をしていただきました。

◆研修会のテーマ「吉野作造と現代」

◆講師 8名

- 猪木 武徳 氏 (国際日本文化研究センター所長)
 御厨 貴 氏 (東京大学先端科学技術研究センター教授)
 阿川 尚之 氏 (慶應義塾大学総合政策学部教授)
 荻部 直 氏 (東京大学大学院法学政治学研究科教授)
 清水唯一朗 氏 (慶應義塾大学総合政策学部准教授)
 奈良岡聡智 氏 (京都大学大学院法学研究科准教授)
 小川原正道 氏 (慶應義塾大学法学部准教授)
 大川 真 氏 (東北大学助教)

◆参加学生 21名

- 慶應義塾大学 6名
 京都大学 3名
 東北大学 12名



研修会内容

◆オリエンテーション

◆シンポジウム「吉野作造と現代」

第1部

基調講演 演者 御厨 貴 氏

演題 「日本に政党政治は根づくのか」

第2部 フォーラム

司会 猪木 武徳 氏

コメンテーター 阿川 尚之 氏、荻部 直 氏
 奈良岡聡智 氏

9
/
3

◆集中講義

小川原 正道 氏

「吉野作造にとっての維新と『公道』」

清 水 唯一朗 氏

「吉野作造と公論空間—大正期の口述筆記から」

9
/
4

◆成果報告会 (終了後、修了式)

9
/
5



二〇一〇年四月〜二〇一一年二月

寄贈資料一覧

（順不同）
敬称略

多くの方のご厚意を得て貴重な資料をご寄贈いただいております。厚く御礼申し上げます。

資料名

寄贈者

- 『近代日本研究』第二十六巻 他一点 慶應義塾福沢研究センター
- 『中央公論社二〇〇年史』 中央公論社
- 『鈴木文治立候補挨拶文』一九三六年（昭和一一） 二宮景喜
- 賀川豊彦書軸「夕闇の土手にのぼりて祈りけり 北上流域めぐみ受けよ」と
- 『大学史紀要』第一四号「三木武夫研究Ⅰ」 他四点 島原美恵子
- 『歴史地理教育』七五九号 他一点 明治大学史料センター
- 『自由民権』第二三三号 他一点 永澤汪
- 『雲の柱』第二四号「賀川豊彦献身一〇〇年記念特集号」 町田市立自由民権資料館
- 『熊野誌』第五四号「与謝野晶子と大逆事件 その接点、その後」（複写） 賀川豊彦記念松沢資料館
- 『組曲虐殺』 他一点 井上平
- 『出版の魂 新潮社をつくった男・佐藤義亮』 高橋秀
- 『追悼 こまつ座が見た井上ひさし』『文藝春秋』二〇一〇年八月号 赤間藤
- 『改訂 国民の財産 消防団―世界に類を見ない地域防災組織―』 後藤
- 『仙台市史』特別編八「慶長遺欧使節」 仙台市 仁昌寺
- 『杉山元治郎 鈴木義男の事績を通して見る東北学院の建学の精神』 他三点 正憲
- 『明治・大正・昭和の郷土史六 宮城県』 他一三三点 佐藤
- 『中央研究院近代史研究所専刊（七五） 吉野作造対近代中国的認識と評価』 他一点 市民セクター政策機構
- 『月刊 社会運動』第三六二号〜第三七〇号 佐々木源一郎
- 『仙台学』第九号 荒蝦夷 読売新聞社
- 『倫理的な戦争 トニー・ブレアの栄光と挫折』 平野新一郎
- 『郷土たじり』第三二二号 他一点 高橋数樹
- 『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第五五輯抜刷 「吉野作造の女性論―女性雑誌に於ける論考を中心に―」 境橋
- 『みやぎ聞き書き村草子』第十集 DVD 『養賢堂物語』前編・後編 特定非営利活動法人宮城教育ネット
- 『社会思想史研究』第三十四号抜刷「一九二〇年代における柳田国男の『共同生存』と『協同団結の自治』」 『吉野作造と比較して』 田宮
- 『南原繁 ナシヨナリズムとデモクラシー』 『歌集 雫』 『この人から受け継ぐもの』 『鈴木文治のいる風景 日本労働運動の源流をつくった男』 『人文会ニュース』二〇一〇年五月 宮崎澤
- 『山本宣治没後五五周年記念出版』第一巻「産児調節評論」 他一点 斎藤
- 『友愛会を源流とした民主的労働運動の歴史』 友愛 藤中
- 『労働運動二十年』 友愛 藤中
- 『鴨東通信』第七十八号 友愛 藤中

慶應義塾福沢研究センター
中央公論社
島原美恵子
明治大学史料センター
永澤汪
町田市立自由民権資料館
賀川豊彦記念松沢資料館
井上平
高橋秀
赤間藤
後藤
仁昌寺
正憲
佐藤
市民セクター政策機構
佐々木源一郎
読売新聞社
平野新一郎
高橋数樹
境橋

利用案内	開館時間	9時～17時（入館は16時30分まで）		
	入館料	区分	個人	団体（20名様以上）
		一般	310円	250円
		高校生	210円	160円
	小・中学生	100円	80円	
休館日	月曜日（但し、月曜日が祝祭日の場合は翌日が休館日となります。） 年末年始（12月29日～1月3日）			



吉野作造記念館
〒989-6105 宮城県大崎市古川福沼1-2-3
TEL 0229-23-7100
E-mail yoshino-npo.fg@blue.ocn.ne.jp
URL http://yoshinosakuzou.jp/

お知らせ

2011年3月11日に発生しました東日本大震災の被害に遭われた方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。当記念館はおかげさまで3月末に通常開館にこぎつけました。展示室見学のほか、会議用貸室もご利用できますのでお問い合わせください。復旧にご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。